

# 指導資料

鹿児島県総合教育センター

# 社会 第118号

— 中学校・特別支援学校対象 —  
平成24年4月発行

## 中学校社会科における授業改善に生かす学習評価の在り方 — 「社会的な思考・判断・表現」の評価を中心に —

学習指導要領の改訂に伴い、平成22年3月24日に中央教育審議会において「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（以下「報告」という）がまとめられた。

「報告」においては、評価の観点に関する考え方が示され、「学力の3要素」と「学習評価の4観点」に関する考え方が図1のように整理された。

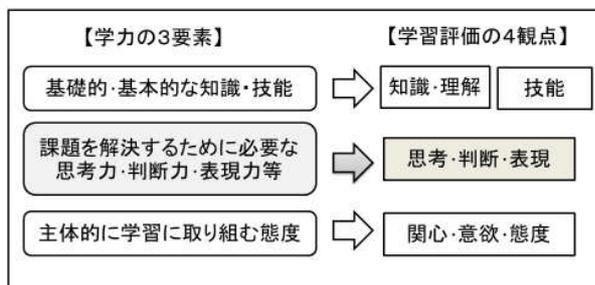


図1 「学力の3要素」と「学習評価の4観点」

また、基礎的・基本的な知識、技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視しながら伸ばしていくとともに、学習意欲の向上を図るという改訂の趣旨を反映し、学習指導と学習評価の一体化を更に進めていくことが示された。

そこで、本稿では、中学校社会科において、評価が「円滑に実施できている」という教師の回答が10.1%と最も少なかった（「学習指導と学習評価に対する意識調査」平成21年度文部科学省委託調査）「社会的な思考・判断・表現」に関する評価の観点について、

その趣旨や評価の在り方を具体例を挙げながら述べる。

### 1 評価の観点と趣旨

学習指導要領における評価の観点及びその趣旨については、文部科学省通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成22年5月）の中で示された。表1は、中学校社会科の評価の観点とその趣旨を整理したものである。

表1 中学校社会科の評価の観点・趣旨

観 点	趣 旨
社会的 事象 への 関心・意欲・態度	社会的 事象 に対する 関心 を 高め、それを 意欲 的に 追究 し、よりよい 社会 を 考え 自覚 を もって 責任 を 果た そう と する。
社会的 な 思考・判断・表現	社会的 事象 から 課題 を 見 いた し、社会的 事象 の 意義 や 特色、相互の 関連 を 多面的・多角的に 考察 し、社会 の 変化 を 踏まえ 公正 に 判断 して、 <u>その 過程 や 結果 を 適切 に 表現 して いる。</u>
資料 活用 の 技能	社会的 事象 に関する 諸 資料 から 有用 な 情報 を 適切 に 選択 し、 <u>効果 的に 活用 して いる。</u>
社会的 事象 について の 知識・理解	社会的 事象 の 意義 や 特色、相互の 関連 を 理解 し、その 知識 を 身に 付けて いる。

(~~~~ は、変更部分で筆者記入)

表1に示したとおり，中学校社会科では，これまでの「社会的な思考・判断」が「社会的な思考・判断・表現」に，同じく「資料活用の技能・表現」が「資料活用の技能」に整理された。これは，内容等に即して思考・判断したことをその内容を表現する活動と一体的に評価することを明確にするとともに，「社会的な思考・判断・表現」における「表現」との混同を避けるためである。

## 2 「社会的な思考・判断・表現」の評価

### (1) 「社会的な思考・判断・表現」の観点について

この観点は，知識，概念や技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒が身に付けているかどうかを評価するものであり，表1に示した趣旨を踏まえて行うことが求められる。

社会的事象から課題を見だし，思考・判断したことは，「話す」，「書く」などの言語活動等で表現される。この言語活動等を通して評価することを意図した観点である。

評価に当たっては，生徒が思考の過程や結果を他者に分かりやすく表現しているかということだけでなく，課題に対して，何を根拠にどのように考え，思考を深めたのかということを経営的に捉えるような，質的な評価が必要である。そこで，当教育センターでは「社会的な思考・判断・表現」の評価規準に加え，目標の達成の度合いを判

断するための目安として「判断の要素」や「判断基準」を設定して評価の研究を進めることとした。

### (2) 「社会的な思考・判断・表現」の具体的な評価の進め方

「社会的な思考・判断・表現」の評価は，図2のような手順を進め，指導と評価の一体化を図っていくことが考えられる。

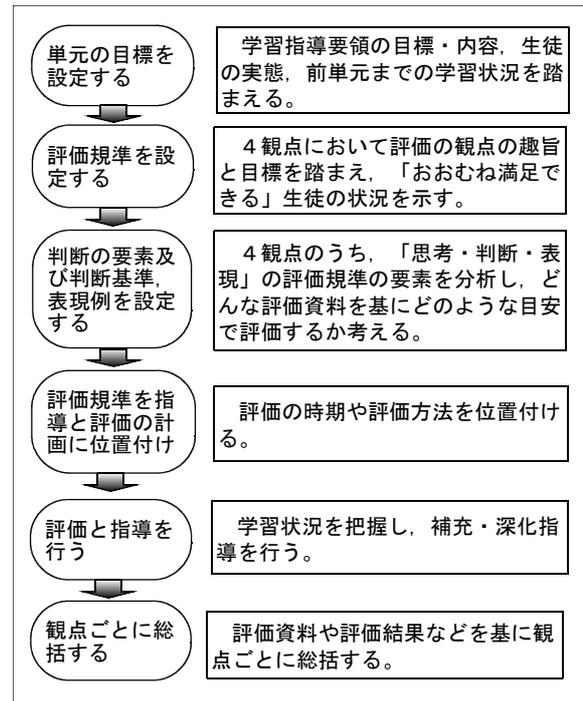


図2 評価の進め方の例

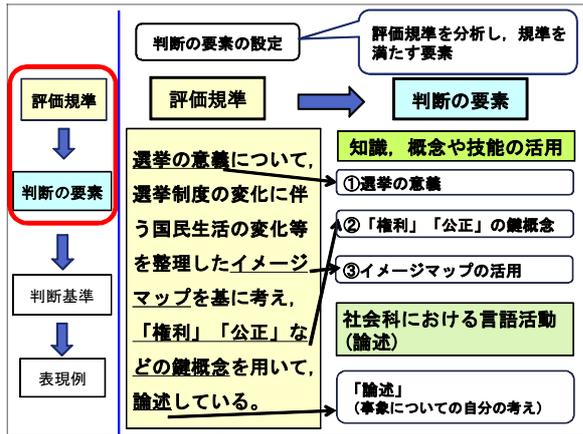
そこで，図2の手順の中から，「評価規準」と「判断の要素」，「判断基準」及び「表現例」の設定について具体的に述べる。

#### ア 「評価規準」の設定

評価規準とは，学習指導要領の目標や内容に準拠して「おおむね満足できる」と判断できる生徒の学習の状況を示したものである。つまり，「生徒に何を身に付けさせたいのか」といった目標の質的な拠り所を示したものである。したがって，その設定に当たっては，単元の目標

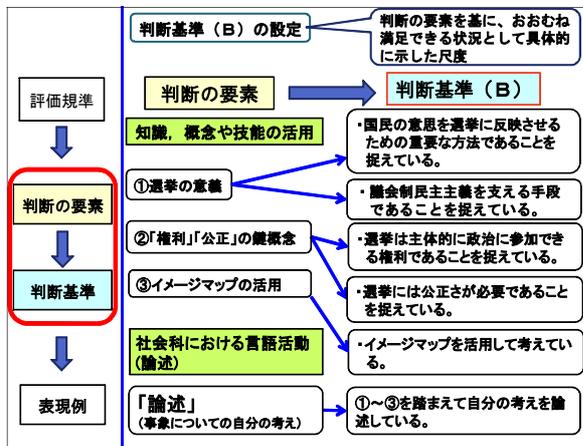


(2) 「判断の要素」の設定例



単元の評価規準をより具体化した一単位時間の「評価規準」を分析し、①「選挙の意義」、②「『権利』『公正』の鍵概念」という知識・概念に加え、③「イメージマップの活用」という技能の活用という要素を設定する。さらに①～③の要素を踏まえて論述するという言語活動の「論述」の要素を設定する。

(3) 「判断基準（B）」の設定例



まず、「判断の要素」である「知識、概念や技能の活用」に係る①～③の要素を基に「判断基準（B）」を設定する。①の「選挙の意義」に関しては、「国民の意思を選挙に反映させるための重要な方法であることを捉えている。」などの尺度である。

次に、「①～③の要素を踏まえ、自分

の考えを論述している。」という言語活動の「論述」の尺度を設定する。

(4) 「生徒の表現例」の設定例

(3)の「判断基準（B）」を踏まえて、学習課題「選挙は、なぜ行われるのだろうか」について、予想される「生徒の表現例」を表したものが次である。

選挙は、主体的に政治に参加するための権利であり、議会制民主主義を支える手段として、国民の意志を政治に反映させるために行われる。そのため、選挙権は、財産や性別に関係なく公正に一人に一票を与え、投票の秘密も守られなければならないと思う。

「評価規準」を基に「判断の要素」、 「判断基準」及び「表現例」を設定することで、よりの確に評価をすることができる。そして、（C）状況の「努力を要する」生徒に対しては、「判断基準（B）」を基にした補充指導を行い、（B）状況の「おおむね満足できる」生徒に対しては、「判断基準（A）」（「判断基準（B）」を踏まえたプラス要素）を基にして深化指導を行うなど、より適切な指導が可能になる。

これまで、中学校社会科における「社会的な思考・判断・表現」の評価について、「評価規準」や「判断基準」等の設定を中心に述べてきた。今回の例を一つの参考として、学習指導要領に示された内容が確実に生徒の身に付くように、評価を授業改善に生かしてほしい。

—参考文献—

○文部科学省「中学校学習指導要領解説社会編」平成20年9月 日本文教出版株式会社  
 ○国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」の活用の方法について 平成23年11月  
 ○岩田一彦・米田豊著「言語力」をつける社会科授業モデル 中学校編 2009年9月 明治図書出版株式会社

（教科教育研修課）